

2025MC1202-017

評価過程の記録

2025年12月6日

1. 事業名

2025年度 海外で開催される国際会議等で研究発表を行う大学院生の研究交流活動補助事業

2. 評価体制

事業者2名（中川、廣垣）、大学院生38名（進学予定学部4回生を含む）に大和歯車製作株式会社顧問（本学名誉教授）1名を加え、研究室内の進捗報告会内で成果報告並びに質疑応答を行うことにより評価を行った。

評価メンバー：中川正夫（事業者／代表者）、廣垣俊樹（事業者／共同研究者）
青山栄一（大和歯車製作株式会社顧問、同志社大学理工学部名誉教授）

3. 進捗報告内での成果報告と評価

研究室内の進捗報告会内で成果報告並びに質疑応答を行った。

助成を受け海外で発表した学生より、国際学会で発表した研究内容並びに海外で学んだこと、当該渡航助成への申請の勧めが発表された。

TOEICのスコアが芳しくなく、英語での発表に不安があったものの、シンプルで通じる英語を実感した旨や世界に通じるコミュニティにふれた経験とそこからの自信が研究室の後輩に向けたメッセージとして伝えられた。



JKA 海外渡航助成について



評価の様子



青山名誉教授からの質問

評価メンバー並びに学生から以下の質疑応答がなされた。

- 渡航助成を知ったきっかけ
- 申請に向けた準備並びに申請書の分量
- 助成期間内の拘束事項
- 滞在期間中最も印象に残った点（食事、文化含む）
- TOEICなどの必要スコア
- 学会で印象に残った発表

本事業を評価するだけでなく、学生への海外渡航助成制度の周知並びに国際学会への参加意欲向上にもつながる非常に有意義な報告であった。